

本書のねらい

本書は、国語学習の基礎・基本を着実に身につけ、

応用力の土台を養うことを目標としています。

段階的な構成になっていますので、基礎から高校入試レベルまでスムーズに学習することができます。

◆本書の構成◆

準備編・読解編・言語編・総合編の四編で構成しています。読解編は三章に分けており、各分野を繰り返し学習することができます。

基本問題

確認問題と同じ文章を読み、学習内容の定着を図ります。
要点^{トキニ}には、確認問題での要点のまとめを補足する内容や基本問題を解くうえで参考になる事柄を記載しています。

読解編

二十七単元で構成しています。第二章以降では、各分野の学習に入る前に、それまでの学習内容を振り返って確認することができる、「○○の確認」という単元を設けています。

確認問題

要点のまとめ・学習目標で、当該単元で「これから何をするか」「何ができるようになるか」を示しています。まず文章を読み、文章内の漢字・語句・文法問題を解くことによって、語彙力の底上げを図ります。次に、要点のまとめに対応する基本的な問題で学習内容の確認を行います。最後に、文章をひととおり読んで理解できているかを測る問題を設けています。

「○○を考える」という小見出しの問題は、単に漢字・語句を答えるだけでなく、自ら漢字・語句について考えていくように工夫しています。

演習問題

確認問題・基本問題よりやや難しい文章を読みます。基本的な問題や、やや手ごたえのある問題、記号問題や記述問題など、多様な問題に取り組むことで、実力アップを図ります。最後のコラムでは、単元内でどのような学習をしたか、今後どのように役立てていけるかを示しています。

①：読解編の各設問のうち、やや難しい設問に①をつけています。

言語編

読解編の単元数と同じ単元数です。上・中段では「漢字・語句」「文法」を、下段では「漢字の読み書き」を学習します。

漢字・語句／文法

学習のポイントを簡潔にまとめた要点のまとめの後に問題が続きます。まとめに対応する基本的な問題で構成しています。

漢字の読み書き

読み五問+書き五問の計十問で構成しています。小学校で学習する漢字を出題しています。

総合編

テスト形式の総合問題です。これまでの学習でどれくらいの実力がついたかを確認することができます。

思考力・判断力・整理力

単元19・27・特集は、作文や意見文の記述、資料の読み取りなどの問題で構成しています。これらの問題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を養い、発展的な問題への対応力を高めることができます。

目次

準備編 問題の考え方

抜き出し問題の考え方

記述問題の考え方 (1)

僕は、試合の前になると極度に緊張するタイプだった。ヒットは打てるか、エラーはしないか、とあれこれ考えては不安になるのだ。ところが田中は、そんな僕とは正反対で、試合の朝でも山盛り三杯の飯が食べられるような肝のすわったやつだった。今朝も、バスが球場に着くまでぐつすり眠っていた。

問題 「田中」はどのような人物ですか。それがわかる表現を、文章中から八字で抜き出しなさい。

肝のすわつたやつ

注意点① 字数どおりに答える

●「〇〇字以内で」とある場合、「〇〇字」を超えては可。ただし、少なすぎるには不可。例えば「二十字以内で」なら、その八割以上の十六字以上を目安にして答えを抜き出す。

注意点②

特に指示がない場合は、「」（）などのカッコや、？（疑問符）、ー（感嘆符）などの符号も、字数に含めて数える。

問題 —— 線 「私はそうは思わない」とあります。それはなぜですか。二十字以内で書きなさい。

映画館に行くのは、時間もお金もかかる。だから、映画は家のテレビで見れば十分だと言う人がいる。しかし、私はそうは思わない。映画は映画館で、大きなスクリーンと優れた音響設備によつて上映されることを前提に作られているのだ。

解答
例映画は映画館で上映されることを前提に作られているから。〈27字〉

注意点① 字数どおりに答える

- 指定字数の八割以上でまとめる。指定字数が二十字以内→十六字以上、三十二字以内→二十四字以上、四十字以内→三十二字以上で答える。

注意点② 問いに対応した形で答える

「なにか」と問われたら「……から」「どのようにとか」と問われたら「……こと」と、文末表現を整える。

記述問題の考え方(2)

言葉の働きといえば、書いたり話したりすることによって、コミュニケーションをとるところから始まり、学校へ行って友達や先生と話す、学校からのお仕事などを読むなど、私たちの日常は言葉によるやり取りであふれている。しかし、言葉には、もう一つの重要な働きがある。それは、頭の中で物事を考えるときの手段となることだ。たとえば部活動で、最近部員の士気が上がらないとしよう。コンクールに出場しようか、朝練の回数を増やそうかななど、皆のやる気を引き出す方法を頭の中であれこれ考える。このときもちろん、私たちは一生懸命言葉を駆使しているはずだ。

問題 一 線 「言葉の働き」とは、どのようなことですか。四十字以内で書きなさい。

注意点③ 具体例や比喩表現は、一般化してまとめる

一般的、抽象的な事柄をわかりやすく説明するために使われている具体例や比喩表現は、そのままでは答えとして適切でないので、一般化してまとめる必要がある。

なつたりすること。
（40字）

注意点④ 指示語は指示内容を明らかにして書く

- 文章中の言葉を使ってまとめるときは、文章中にある指示語の指示内容を明らかにして書くようにする。

準備編

説明的文章の読み方

1 説明的文章 とは?

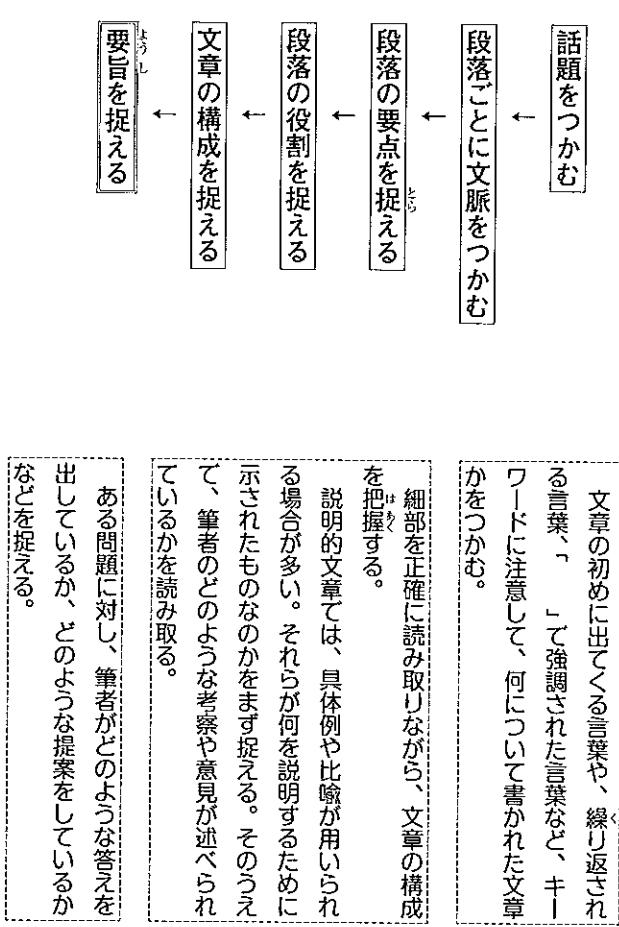
ある事柄について筋道を立ててわかりやすく述べた文章。大きく分けて説明文と論説文の二種類がある。

● 説明文：ある事柄について、事実にもとづいてわかりやすく説明した文章。

● 記録文や報告文なども、説明文に含まれる。

● 論説文：ある事柄についての筆者の意見や主張を、根拠などを示し、筋道を立てて述べた文章。

2 説明的文章の読み解きの流れ



文章の初めに出てくる言葉や、繰り返される言葉、「」で強調された言葉など、キーワードに注意して、何について書かれた文章かをつかむ。

細部を正確に読み取りながら、文章の構成を把握する。

説明的文章では、具体例や比喩が用いられる場合が多い。それらが何を説明するために示されたもののかをまず捉える。そのうえで、筆者のどのような考察や意見が述べられているかを読み取る。

3 説明的文章の読み解き (1) 文脈をつかむ

① 指示語の指す内容を捉える。

・ 指示語の含まれる一文から、指示語の指す内容に見当をつける。

・ 指示語の指す内容は、指示語よりも前にあることが多い。

・ 見当をつけた言葉を指示語の部分に当てはめて、意味が通じるかどうか確かめる。

② 接続語の働きを捉える。

接続語の働きに注意して、接続語の前後の関係を捉える。

		接続語の働きと主な接続語			
		順接	逆接	並立	累加
理由を表す表現	言い換えを表す表現	対比	選択	並立	累加
		転換	補足	説明	対比
「……から」「……ので」「……ため」	「……から」「……ので」「……ため」	前の事柄とくいちがう事柄を、後で述べる。	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。	前の事柄に並べたり、付け加えたりする。	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。
順接・説明の接続語（「だから」「なぜなら」など）	前後の事柄から話題を変えて、後の事柄を述べる。	前の事柄をまとめたり、補つたりする。	前の事柄から話題を変えて、後の事柄を述べる。	圆 あるいは または それとも もしくは	圆 つまり なぜなら 例えれば ただし では いっぱい

③ 理由を表す部分や言い換えられている部分を捉える。

次のような言葉に着目する。

- ・ 「……から」「……ので」「……ため」
- ・ 順接・説明の接続語（「だから」「なぜなら」など）
- ・ 「言い換えると」「いわば」「……といえる」
- ・ 説明の接続語（「つまり」「すなわち」「要するに」など）

ある問題に対し、筆者がどのような答えを出しているか、どのような提案をしているかなどを捉える。

表す表現

(2)

段落の要点を捉える

その段落で筆者が最も述べたい事柄を要点という。

① キーワードを捉える。

繰り返し出てくる言葉や、対比、強調されている言葉に着目する。

② 段落の始めや終わりに注意して、中心文を見つける。

段落の内容が端的に述べられている文を中心文という。この中心文に着目して、段落の要点を捉える。

③ 中心になる部分と、それ以外の部分（具体例や比喩、根拠、理由など）を読み分ける。

〈中心になる部分〉

これまでの内容がまとめられている部分。

→ 「つまり」「要するに」などの接続語に着目。

筆者の意見が述べられている部分。

→ 「……と考える。」「……べきだ。」などの文末表現に着目。

(3)

① 段落の役割を捉える

② 文章全体の中で、その段落がもつ役割を考える。

【段落の役割】

- ・話題・問題を提起する。
- ・前の内容の説明・理由・具体例を挙げる。
- ・前の内容と対立する事柄を述べる。
- ・前に述べた内容を整理したり要約したりする。
- ・新しい話題を述べる。
- ・文章全体を締めくくる（意見をまとめめる）。

(4)

文章の構成を捉える

意味段落を捉える。
内容的につながりのある段落をまとめ、文章全体をいくつかの意味段落に分ける。

(5)

文章の構成の基本型

頭括型	尾括型	双括型
最初に結論を述べ、その後で具体例や根拠などを述べる。 根拠など、結論を支える事柄を述べる。	最初に結論を述べ、最後に結論を述べる。 最初に結論を述べ、最後に再び結論を述べる。	最初に結論を述べようとしていることの中心である。 序論で問題を提起している場合は、それに対する答えを抑おさええる。 二つの事柄が対比されている場合は、筆者がどちらを重視しているかを捉える。

*尾括型は、序論（問題提起）—本論—結論（まとめ）という、三段構成をとることが多い。

要旨を捉える

要旨とは、筆者が文章を通して述べようとしていることの中心である。

① 文章の始めや終わりに着目して、結論を述べている段落を捉える。

② 筆者の意見・主張を捉える。

- ・序論で問題を提起している場合は、それに対する答えを抑おさええる。
- ・二つの事柄が対比されている場合は、筆者がどちらを重視しているかを捉える。
- ・筆者の主張が明示されている文に着目する。
- 例 「しかし」「つまり」などの接続語の後。
- 例 「……と考える。」「……べきだ。」などで終わる文。

準備編

文学的文章の読み方

1 文学的文章 あるテーマにもとづいて、想像上の出来事や筆者の体験などを描いた文章（ここでは、そのうち小説と隨筆を扱う）。

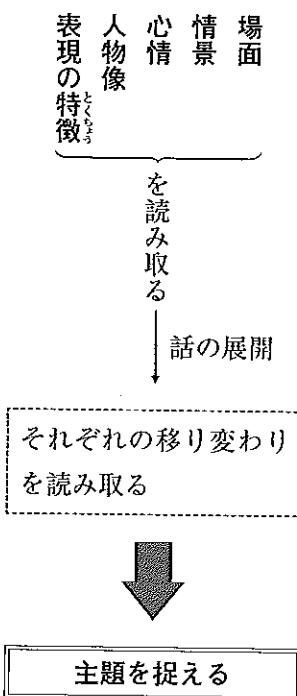
- 小説：出来事・事件や登場人物の生き方の中に、作者の考えを表そうとした文章。物語・フィクションという言い方をすることがある。作者は、想像によつて人物像やその人物の生きる世界を作り出し、その中に自分の考えを盛りこむ。

● 隨筆…筆者が見聞きしたことや体験したことなどについて、感じたことを思いつくままに述べた文章。隨筆の話題は、自然環境、社会情勢、

人生の問題、文化・芸能など、多方面にわたる。

2 小説の読み解き

小説では、場面ごとに、情景や登場人物の心情、人物像などを押さえ、話の展開に沿つてその移り変わりを読み取り、最終的に主題を捉えることを目標とする。



(1) 場面を捉える
次の要素について読み取り、場面を把握する。

【場面を構成する要素】 <着眼点>

いつ (時)	時代、季節、時刻を表す言葉
どこで (場所)	場所を表す言葉
誰が (登場人物)	人物と、人物どうしの関係
どうした (出来事)	出来事と、そのきっかけ (原因)、結果

※ 地の文での説明だけではなく、人物の会話にも注目する。

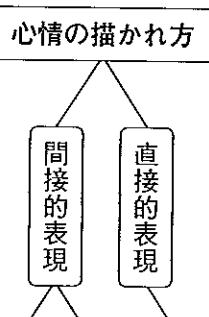
(2) 情景・心情を捉える

情景とは、登場人物や作者の心を通して描かれる風景や場面の様子のこと。情景には、登場人物の心情が反映されていることが多い。

人物の喜怒哀楽を直接表現する。

人物の様子・行動などによつて表現する。

情景描写によって表現する。



小説の読み解きで最も重要なのは、人物の心情の変化を読み取ることである。

心情の変化には、場面の変化（時間の変化・場所の変化・人物の登退場・新たな出来事）など、必ず何かきっかけ（原因）がある。
話の展開に沿つて、人物の心情がどのようになきつかけて、どのように変化したのかを読み取る。

(3) 人物像を捉える

人物像を捉えることで、その人物の行動の理由や心情もつかむことがで
きる。次の着眼点から、人物像を捉える。

- ・人物の設定：立場・境遇・性格・考え方などを押さえる。
- ・他者から見た人物像：他者が、その人物についてどのように捉えている
のかに注目する。

(4) 表現の特徴を捉える

工夫された表現の特徴を捉え、味わうことで、文章の理解が深まる。

【文章の特徴】

- ・文末（常体か敬体か、現在形か過去形か）
- ・一文の長さ（一文が長いか短いか）
- ・視点（一人称か三人称か）
- ・言葉（漢語が多いか、片仮名が多いかなど）

【表現技法】

- ・比喩
- ・体言止め
- ・反復
- ・対句
- など

(5)

主題を捉える

主題とは、作者が文章を通して表現しようとしていることである。

【主題を読み取るための主な要素】

- ・作品の舞台・背景や、状況・人間関係などを捉える。
- ・話のやま場（クライマックス）と、やま場における登場人物の行動、
心情とその変化を捉える。



- ・登場人物（主人公）の心情、考え方、生き方に着目し、登場人物が何に心を揺
り動かされてどう変わったのかを押さえ、作者が文章を通して表現したかったこ
と（作者の心情・思想）は何かを読み取る。

3 随筆の読解

(1) 題材を捉える

随筆とは、筆者の体験や見聞をもとにして、筆者が感じたことや思った
ことをまとめたものである。まず、題材が何であるかを捉える。題材は、
大きく二つに分けられる。

- ・実際に体験したこと（直接的）……日常生活・旅行・行事など
- ・見聞によるもの（間接的）……本・インターネット上の話題・他者の
話など

(2) 表現の特徴を捉える

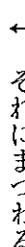
随筆では、筆者が自分の思いを効果的に伝えるために、表現に独特的の工
夫を凝らしている。心情表現をはじめ、一文の長さ、符号の使用、擬声語・
擬態語、比喩・対句など、表現の特徴を読み取る。

(3) 主題を捉える

まず、筆者が体験した、あるいは見聞きした事実を語っている部分と、
それによつて感想をまとめていたり、筆者の心の動きを読み取る。

次に、感想をまとめていたり、筆者の心の動きを追つていき、筆者独自のものの見方・考え方を捉えていく。
それが、文章で筆者が最も訴えたかったこと、すなわち主題に密接に結びついている。

事実 筆者が実際に体験したこと・見聞きしたこと



感想 筆者独自の考え方・一般的な考え方

（着眼点） 繰り返されている言葉・対比されている内容

強調されている文末表現・筆者の価値判断が表れた表現

説明的文章(1) 指示語

要点のまとめ

● 指示語

指示語とは?
使う言葉。

同じ言葉の繰り返しを避け、文章を読みやすくするために
使う言葉。園ここ・それ・この○○・そのような○○

● 指示内容を捉える→確認する

① 最初に、指示語を含む一文の内容を確認する。

園庭に桜の木がある。
それは祖母が植えたものだ。

指示語を含む一文

指示語の指す内容がどのようなものであるかは、指示語を含む一文を見ると確認できます。
この園では、祖母が「植えたもの」とは「何か?」、と考えることによって、指示語の指すものが何であるか、だいたい見当をつけることができます。

- ② 指示語が指している内容は、指示語より前にあることが多いので、まずは指示語より前に注目して、指している内容を捉える。
- 园庭に桜の木がある。それは祖母が植えたものだ。
- ③ 指示語の部分に指示内容を当てはめてみて、文意が通ることを確かめる。
- 园庭に桜の木がある。桜の木は祖母が植えたものだ。

【省略】
・指示語とは何か、どのような役割がある言葉なのかがわかる。
・指示語と指示内容の関係を確認し、指示内容を捉えることができる。
・指示内容を正確に抜き出したり、書き表したりすることができる。

確認問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

今からおよそ四〇〇年前、オランダのミツデルブルグという町では、ガラスを使った産業がさかんでした。ときは一六〇八年の秋、めがね職人のリッペルスハイムは、手に持った二個のレンズを通して外をながめると、遠くにあるものが近くに、大きく見えることに気がつきました。望遠鏡が発明された瞬間です。このように、望遠鏡は偶然に誕生しました。それが耳にしたのが、ガリレオです。ガリレオは、リッペルスハイムが発明したのと同じように、筒のはしに二つのレンズをつけた望遠鏡をつくりました。このような望遠鏡を屈折望遠鏡といいます。リッペルスハイムは、望遠鏡で昼間の景色を見ただけでしたが、ガリレオは望遠鏡を使って夜空を観察した最初の人です。

- (1) 漢字・語句・文法の確認
- (2) 熟語を考える
- (3) 慣用句

- (1) 漢字の読み書き――線Ⓐ～Ⓑの漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ)

かな)

個 個

- (3) 慣用句
- ～線B 「耳にした」とあります、「耳にする」と同じ意味を表す慣用句を次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 耳につく イ 耳にはさむ
ウ 耳を疑う エ 耳を立てる



ガリレオが最初に見た天体は、月でした。目でながめても、月の表面には色のちがいがあるのがわかりますね。望遠鏡で月を観察したガリレオは、それが表面にある山や平原（今では海といいます）などの地形のちがいでありますと見つけました。

また、木星を望遠鏡で見ると、近くに小さな天体が四個ありました。しばらく観察を続け、それらが木星のまわりを回っていることを発見したのです。今では、その四つをガリレオ衛星⁽¹⁾とよんでいます。

冬の星座、おうし座の方向にあるプレアデス星団を目でながめると、六個くらいの星が集まっているように見えます。ガリレオは望遠鏡を使い、じつはそこには四〇個ほどの星があることを発見しました。

ガリレオは望遠鏡を夜空に向けて観察をするたびに、新しいことを見つけていったのです。

ガリレオが屈折望遠鏡をつくつてからおよそ六〇年後の一六六八年、イギリスのニュートン⁽²⁾がちがうタイプの天体望遠鏡を発明しました。鏡を25使つて天体からの光を集め反射望遠鏡です。のちに、直径⁽³⁾が大きくて、光をたくさん集めることができる鏡をつくるギジュツ⁽⁴⁾が発達し、大きな反射望遠鏡が次々とつくられています。

*現在、世界でもっとも大きな望遠鏡は、アメリカ・ハワイのマウナケア山の山頂にあるケック望遠鏡です。ケック望遠鏡のような最新の大型望遠鏡は、今まで知られていなかつた宇宙のすがたを次々に写しだしてくれています。ガリレオが宇宙に望遠鏡を向けたときと同じようですね。

天体望遠鏡の発明によって、わたしたちは視力をものすごくよくする方法を手に入れました。またその発達によつて、より遠くにある天体を調べたり、コマ⁽⁵⁾かなようすを見たりすることができるようになりました。そうして天文学は、大きく進歩してきました。

※一部省略等があります。
（布施哲治「なぜ、めい王星は惑星じゃないの？」より）

（注）現在……望遠鏡です。さらに大型のものが続々と計画・建設中である。

- (4) 主語・述語 ～線C 「つくりました」の主語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ガリレオは イ リッペルスハイムが
ウ 同じように エ 望遠鏡を

- (5) 同音異字 ～線D 「径」と同じ音読みをもつ漢字を□に当てはめて、それぞの熟語を完成させなさい。

□ 快な音楽・貴重な□ 験

- (6) 部首 ～線E 「宇宙」の漢字二字に共通する部首の名前を、平仮名で書きなさい。

□

- (7) 画数 ～線F 「写」と総画数が同じ漢字を次から一つ選び、記号で答えるさい。

ア 吸 イ 考 ウ 比 エ 包

□

- (8) 指示語 ～線「それら」とありますか、何を指していますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から抜き出しなさい。

・四個の□。

- (9) 文章内容の確認 この文章は何を中心にして述べたものですか。それがわかるようすに、次の文の□に当てはまる言葉を文章中から抜き出しなさい。

・天体□の発明。

基 本 問 題

▽▽▽ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- ① 今からおよそ四〇〇年前、オランダのミッセルブルグという町では、ガラスを使った産業がさかんでした。ときは一六〇八年の秋、めがね職人のリッペルスハイムは、手に持った二個のレンズを通して外をながめると、遠くにあるものが近くに、大きく見えることに気がつきました。望遠鏡が発明された瞬間です。^①このように、望遠鏡は偶然に誕生しました。
- ② 次の年の一六〇九年には、イタリアにもそのうわさが伝わりました。それを耳にしたのが、ガリレオです。ガリレオは、リッペルスハイムが発明したのと同じように、筒のはしに二つのレンズをつけた望遠鏡をつくりました。^②このような望遠鏡を屈折望遠鏡といいます。リッペルスハイムは、¹⁰ 望遠鏡で昼間の景色を見ただけでしたが、ガリレオは望遠鏡を使って夜空を観察した最初の人です。
- ③ ガリレオが最初に見た天体は、月でした。目でながめても、月の表面には色のちがいがあるのがわかりますね。望遠鏡で月を観察したガリレオは、それが表面にある山や平原（今では海といいます）などの地形のちがいであることを見つけました。¹⁵
- ④ また、木星を望遠鏡で見ると、近くに小さな天体が四個ありました。しばらく観察を続け、それらが木星のまわりを回っていることを発見したのです。今では、その四つをガリレオ衛星とよんでいます。
- ⑤ 冬の星座、おうし座の方向にあるプレアデス星團を目でながめると、六個くらいの星が集まっているように見えます。ガリレオは望遠鏡を使い、²⁰ じつはそこには四〇個ほどの星があることを発見しました。
- ⑥ ガリレオは望遠鏡を夜空に向けて観察をするたびに、新しいことを見つけていったのです。
- ⑦ ガリレオが屈折望遠鏡をつくってからおよそ六〇年後の一六六八年、

15 20

- (1) 指示語——線①「このように、望遠鏡は偶然に誕生しました。」とあります。が、望遠鏡が誕生したときのことが書かれた一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

- (2) 指示語——線②「このような望遠鏡」とは、どのような望遠鏡ですか。文章中から十八字で抜き出しなさい。

- (3) 指示語——線③「それ」とありますが、何を指していますか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

にある

- (4) 指示語——線④「その四つ」とは、何を指していますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って、元の文に当てはめたときに文意が通るように十字以内で書きなさい。

- 木星のまわりを回っている□



要旨^{ヲス}

- 指示語には「これ」「そこ」「こちら」の他に、「このとき」「そのため」「こんな話」「そういうふた事柄」などがある。指示内容を答えるときは、次のように文末に注意して答える。
- 「このとき」とは、どのようなときですか→「〇〇〇〇（の）とき。」
- 「そのため」とは、何のためですか。↓「□□□□□□（の）ため。」
- 指示語の指す内容を指示語の部分に当てはめて、文意が通りづらいときは、意味が変わらない程度に語順を変えてみる。
- 青エンピツを三本買った。忘れないうちにそれらをカバンにしまった。
「三本の青エンピツ」
「青エンピツを三本」
語順の入れ替え
- 指示語は、指示語より前に書かれている内容を指している場合が多いが、なかには指示語よりも後に書かれている内容を指している場合もある。

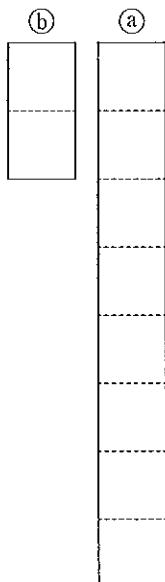
○私はこう考えます。仲間を信じる心こそが貴いのだと。



(8)

文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 天体望遠鏡は、長年多くの研究が重ねられた末によく誕生した。
- イ 屈折望遠鏡で最初に夜空を観察した人は、リッペルスハイムである。
- ウ ニュートンは、鏡で天体からの光を集め反射望遠鏡を発明した。
- エ 大型望遠鏡が登場して初めて、専門的な宇宙の研究が可能になった。



イギリスのニュートンがちがうタイプの天体望遠鏡を発明しました。鏡を 25 使つて天体からの光を集め反射望遠鏡です。のちに、直径が大きくて、光をたくさん集めることができる鏡をつくる技術が発達し、大きな反射望遠鏡が次つぎとつくれられています。

⑧ 現在、世界でもっとも大きな望遠鏡は、アメリカ・ハワイのマウナケア山の山頂にあるケック望遠鏡です。ケック望遠鏡のような最新の大型望遠鏡は、今まで知られていなかつた宇宙のすがたを次つぎに写しだしていくのです。ガリレオが宇宙に望遠鏡を向けたときと同じようですね。

⑨ 天体望遠鏡の発明によつて、わたしたちは視力をものすごくよくする方法を手に入れました。またその発達によつて、より遠くにある天体を調べたり、細かなようすを見たりすることができます。そうして天文学は、大きく進歩してきました。

〈布施哲治「なぜ、めい王星は惑星じゃないの?」より〉

※一部省略等があります。

(注) 現在……望遠鏡です。=さらに大型のものが続々と計画・建設中である。

- (5) 指示語——線⑤「そこ」とありますか。文章中から一語で抜き出しなさい。
- (6) 内容理解——線⑥「新しいこと」とありますが、ガリレオが見つけた「新しいこと」について述べているのは何段落から何段落までですか。段落番号で答えなさい。
- 段落から □ 段落まで
- (7) 指示語——線⑦「天文学は、大きく進歩してきました」とありますが、筆者は天文学はどのようにによって進歩したと述べていますか。次の文の□(a)・(b)に当てはまる言葉を、(a)は八字、(b)は二字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。
- (a)と、その□(b)によつて、より遠くの天体の観察ができるようになつたこと。

(8) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 天体望遠鏡は、長年多くの研究が重ねられた末によく誕生した。
- イ 屈折望遠鏡で最初に夜空を観察した人は、リッペルスハイムである。
- ウ ニュートンは、鏡で天体からの光を集め反射望遠鏡を発明した。
- エ 大型望遠鏡が登場して初めて、専門的な宇宙の研究が可能になった。



演習問題

▽▽▽ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- [1] 大昔の地球は、たった一つの大陸と、それ以外の海というふうに、はつきり二つに分かれていた。ところがその大陸が少しずつ分離して移動して、今のような配置になつていった。^①これがウエゲナーの唱えた大陸移動説です。
- [2] この大陸移動説を使うと、いろいろなことが説明できます。
- [3] 大西洋を挟んで、西ヨーロッパと北アメリカには同じ種類のカタツムリやミミズがいます。カタツムリやミミズが大西洋を泳いで別の大陸に渡ることなどできるわけがありません。では、なぜ西ヨーロッパと北アメリカに同じ種類のカタツムリやミミズがいるのでしょうか？^②
- [4] この疑問に対しても、学者たちはさまざまな仮説を立てました。ウエゲナーが大陸移動説を発表する前のことです。
- [5] 仮説の一つに「陸橋説」というものがありました。陸橋、つまり陸の橋です。かつては大西洋を挟んで、アメリカと西ヨーロッパの間に、陸の橋のようなものがかかっていた。カタツムリやミミズは、それを渡つたのではないだろうか。こういう仮説を立てた学者がいました。
- [6] 「ミミズやカタツムリが橋を渡つて大移動するか？」そんなツッコミを入れたくなりますが、言いたいことはわかります。離れた大陸に同じ生き物がいるのだから、それをつなぐ何かがあるという発想自体は、自然なものですね。
- [7] しかし、^④その痕跡はどこにも見つかりません。仮説は唱えたものの、その証拠^⑤が見つかなかったのです。
- [8] 大陸移動説ならば、この現象は簡単に説明できます。昔は一つの大陸で、それが分かれたのだと考えれば、二つの大陸に同じ生き物がいてもおかしくはありません。
- [9] あるいは、氷河についてこんな謎がありました。^⑥
- [10] 山に雪が降つて積もっていくと、下のほうの雪は溶けないまま、後から降

10

5

15

- [11] この氷河の通つた跡が、赤道近くにもあります。赤道近くに、どうして氷河の跡が残つているのか。これも、大陸が全部一つになつていて、氷河が通つたと考へれば、説明がつくわけです。
- [12] では、一つだった大陸は、いつごろ分かれていたのでしょうか？^⑦
- [13] たとえば、同種の恐竜の化石はアメリカでもオーストラリアでも、世界のあちこちで見つかっています。恐竜が生息していた時代は、地層を調べると、二億年前ぐらいだということが判明しました。^⑧そこから、二億年前にはまだ大陸がつながつていただろうということがわかるわけです。そしてだいたい、その時代から、少しずつ大陸が分かれていったことも、地層の調査からわかつてきました。
- [14] このように、大陸移動説は、それまで謎とされていたことをうまく説明できるのですが、最も根本的な問題が未解決のままであります。
- [15] それは「そもそもなぜ大陸が移動するのか」という問題です。ウエゲナーは、地球が自転をするときの遠心力で大陸が移動するのではないかという仮説を立てましたが、他の研究者から、遠心力には大陸を動かすほどの力はないと批判されました。
- [16] 結局、大陸移動説は大陸が移動するそもそもの原因について説明することができませんでした。その結果、大陸移動説は、一度は否定されました。
- （注）痕跡＝過去に何かがあつたことを示すあと。
遠心力＝物体が円を描くように動くとき、円の中心から外へ飛び出す向きに働く力。

45

25

30

35

(1) 指示語——線①「これが……大陸移動説です。」とあります、^お「大陸移動

} {

りの五字を書きなさい。

(2) 指示語——線②「この疑問」とは、どのような疑問ですか。「……のはな

§

のはなぜか。

(3) 指示語——線③「それ」とありますか、「……」のように続くように、文章中の言葉を使って「十五字以内で書きなさい。

の よう な もの。

6

(8) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球上の大陸は、大昔から一つになつたり分離したりを繰り返してきた。

イ 地層調査の結果、大陸が分かれ始めたのは二億年前頃だとわかつた。

ウ 氷河は、山に降り積もつた雪が寒さて氷になることでできる。

エ 地球についての謎は、大陸移動説によつてさらに深まつた。

オ 大陸移動説は、移動の原因がつかめずに否定されたことがある。

指示語——線⑥「そこから、……わかる」とあります、二億年前にはまだ大陸がつながっていた」といふことは、どのようなことからわかりますか。その根拠が書かれた連続する二文を抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

(7) 指示語――線(7)「最も根本的な問題」とは、どのような問題ですか。文章中から二十字以上二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

169

{

100

15

という謎。

指示語が指している内容を考える→文章の内容がわかる

指示語は、筆者が同じ言葉を繰り返すのを避けるために使うもの。指示語の内容が設問になつていないとても、常に、「指示語が指している内容は何?」と、考えながら読むと、文章がよりわかるようになります。

2

説明的文章(2)

接続語

要点のまとめ

●接続語

接続語とは？ 語句と語句、文と文、段落と段落をつなぎ、前後の関係性を表す働きをする言葉。

接続語の働き	順接	逆接	並列・累加
説明・補足	前後の事柄が、後の事柄の原因・理由となる。	前の事柄と食い違う逆の事柄を後で述べる。	並べたり、付け加えたりする事柄を後で述べる。
対比・選択	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。	並べたり、付け加えたりする事柄を後で述べる。	並べたり、付け加えたりする事柄を後で述べる。
転換	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。	前後の事柄から話題を変える。

確認問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

タンボボは外国からやつてきた外来の西洋タンボボと、昔から日本にある在来の日本タンボボに大別されます。西洋タンボボは、勢力をカクダイしているのに対して、在来の日本タンボボはだんだんと数を減らしています。

そうだとすると日本タンボボよりも、西洋タンボボの方が強いのでしょうか。両者の能力を比べてみるとどうでしょう。

西洋タンボボは日本タンボボよりも、小さくて軽い種子を作ります。そのため、より遠くまで種子を飛ばすことができます。そして、種子が小さいということは、その分だけ、種子の数を多くすることができます。

また、日本タンボボは他殖なので、ハチやアブなどが花粉を作ることでないと種子ができません。

それに対して、西洋タンボボは花粉がつかなくても種子を作ることができます。そのため、まわりに花がなく、昆虫がい

10

5

- ①接続語の働きを確認する。
②接続語に着目する→前後の関係をつかむ

例) ミツバチは頭がいい。しかも、働き者である。

①並列・累加の接続語
②前後の内容に後の内容を付け加えている(累加)
②①を踏まえて、前後の内容の関係を捉える。

この例では、ミツバチについて、前の文で述べた「頭がいい」と同じに、後の文で「働き者である」とことを付け加えています。説明的文章では、接続語の働きに着目して前後の内容の関係を確認しておこなうことが、文脈をつかむ際の大きな手がかりとなります。

- 漢字・語句・文法の確認
(1) 漢字の読み書き――線ア～エの漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

ア() イ() ウ() エ() ベ()
エ() イ() ウ() エ() えて()

- (2) ～線A「大別」について、次の各問い合わせに答えなさい。

1 漢字の読み「大別」の「大」と同じ読み方の「大」を含む熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学 イ 尊大 ウ 大成 エ 遠大

□

2 漢字の意味「大別」の「別」と同じ意味の「別」を含む熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 別名 イ 別格 ウ 特別 エ 選別

□

接続語とは何か、どのような役割がある言葉なのかがわかる。
接続語の種類とその働きを理解し、使い分けることができる。
接続語の前後のつながりを捉え、文脈を理解することができる。

ないような環境でも、種子を作ることができるのです。

それだけではありません。日本タンポポは春にしか咲きませんが、西洋タ

ンポポは一年中、花を咲かせることができます。そのため、西洋タンポポは次
から次へと花を咲かせて、次から次へと種子をバラまくことができるのです。

こうして見ると、どうも西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも強そうです。
しかし、本当にそうでしょうか。

日本のタンポポは、西洋タンポポよりも大きな種子をつけています。これは、
遠くまで飛ばす上では不利ですが、大きな種子からは大きな芽生えが育ち

ます。これは、他の植物と競って伸びる上では大切です。また、他の花の
花粉と交配することによって、バラエティに富んださまざまな子孫を残す
ことができます。これは、多様な環境に適応するのに有利です。

さらに、日本タンポポは春にしか咲きません。そして、さつさと咲き終
わって種子を飛ばすと、根だけ残して自ら枯れてしまうのです。

夏になれば、他の植物は生い茂って、小さなタンポポには光が当たりま
せん。そこで、他の植物との戦いを避けて、地面の下でやり過ごすのです。
つまり、日本タンポポは、自然豊かな環境で育つのに、とても戦略的なのです。

一方、西洋タンポポは、種子が小さく競争力は高くありません。また、
一年中、花を咲かせようとするので、夏には他の植物に負けてしまいます。

その代わりに他の植物が生えないような都会の道ばたで花を咲かせて、分
布を広げているのです。

西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているということは、
じつは、日本タンポポが生えるような日本の自然が減少し、都会の環境が
(5) ⑤ ついているということなのです。

西洋タンポポと日本タンポポと、どちらが強いということはありません。

どちらも自分の得意な場所を生息地にしています。

※一部省略等があります。
(注) 他殖=自分の花粉ではなく、他の花の花粉と交配することで種子を作る仕組み。

35

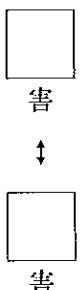
25

30

(3) 筆順 ～～線B 「飛」の筆順として適切なものを次から一つ選び、記号で
答えなさい。

- | | |
|---------------|---------------|
| ア ハ ベ ハ ベ 飛 飛 | イ ハ ベ ハ ベ 飛 飛 |
| ウ ハ ベ ハ ベ 飛 飛 | エ ハ ベ ハ ベ 飛 飛 |

(4) 対義語を考える ～～線C 「不利」・D 「有利」は、対義語の関係にあり、一
字が共通しています。これと同じような関係になるように、次の□にそれぞ
れ漢字を当てはめて完成させなさい。



□ 告 ↓ □ 害

□ 害 ↓ □ 告

(5) 同訓異字 ～～線E 「代」と一線が同じ漢字になるものを次から一つ選び、
記号で答えなさい。

- | | |
|---------------|--------------|
| ア いつもとカわりがない。 | イ カわった服を着る。 |
| ウ 空の色がカわる。 | エ 父のかわりを務める。 |

(6) 類義語 ～～線F 「得意」の類義語を、次の□に漢字を当てはめて完成させ
なさい。

得 □

(7) 接続語 一線「そのため」の働きとして適切なものを次から一つ選び、記
号で答えなさい。

- ア 順接 イ 逆接 ウ 並列・累加 エ 対比・選択

□

(8) 文章内容の確認 この文章は、何と何と比べて述べたものですか。文章中
(注) 文章内容の確認 この文章は、何と何と比べて述べたものですか。文章中

基本問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- 〔1〕タンポポは外國からやつてきた外來の西洋タンポポと、昔から日本に
ある在来の日本タンポポに大別されます。西洋タンポポは、勢力を拡大し
ているのに対して、在来の日本タンポポはだんだんと数を減らしています。

〔2〕① そうだとすると日本タンポポよりも、西洋タンポポの方が強いので
しょうか。

〔3〕両者の能力を比べてみるとどうか。

〔4〕〔5〕西洋タンポポは日本タンポポよりも、小さくて軽い種子を作ります。
そのため、より遠くまで種子を飛ばすことができます。そして、種子が小さ
いということは、その分だけ、種子の数を多くすることができます。

〔6〕〔7〕また、日本タンポポは他殖なので、ハチやアブなどが花粉を運んでこ
ないと種子ができません。
それに対して、西洋タンポポは花粉がつかなくても種子を作ることが
できる特殊な能力を持つています。そのため、まわりに花がなく、昆虫が
いないような環境でも、種子を作ることができるのです。

〔8〕〔9〕〔10〕〔6〕 それだけではありません。日本タンポポは春にしか咲きませんが、西洋タ
ンポポは一年中、花を咲かせることができます。そのため、西洋タンポポは次
から次へと花を咲かせて、次から次へと種子をバラまくことができるのです。
こうして見ると、どうも西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも強
いです。

(1) 接続語——線①「そうだとすると」・②「そして」の働きとして適切なもの

ア 順接イ
对比・選択せんたく

才 說明・補足

転換

1

2

接続語——線③「それに対して」について、次の各問いに答えなさい。
1 「それに対して」とは、どのようなことに対していますか。「……こと」に対
して。」に続くように、文章中の言葉を使って、三十五字以内で書きなさい。

2 「それに対して」の働きとして適切なものを次から一つ選び、記号で答

ア 順接 イ 累加 ウ 対比 エ 工補足

1

(3) 接続語——線④「次から次へと花を咲かせて、……ことができる」とあります。それができるのは、西洋タンポポがどのような能力を持つているからですか。「……能力。」に続くように、文章中から十字以内で抜き出しなさい。

(4) 指示語・接続語——線⑤ 「こうして見ると、……強そうですね。」とあります
が、何段落から何段落までの内容を受けて「強そう」だと述べていますか。

段落番号で答えなさい。

Vertical dashed lines are spaced at 1 cm intervals.

能力。

(4) 指示語・接続語——線⑤「こうして見ると、……強そうです。」とあります

10 9
⑥ 、本当にそうでしょうか。
日本のタンポポは、西洋タンポポよりも大きな種子をつけます。これは、遠くまで飛ばす上では不利ですが、大きな種子からは大きな芽生えが育ちます。これは、他の植物と競つて伸びる上では大切です。⑦ 、他の花の花粉と交配することによって、バラエティに富んださまざまな子孫

要忘

接続語を当てはめる問題では、前後の内容から文のつながりを探し、合う語を選択。

内容A 内容B

○美香さんは薄着をした。、風邪を引いた。

AはBの原因・理由
↓ 順接の接続語が当てはまる

- のように「それに対して」「以上の」とから」などは、指示語でもあり接続語でもある。それまでに述べた内容を踏まえて、後の部分につないでいる。
- 二週間前に風邪を引いて高熱を出したが、三日後には回復し、登校した。ところが、後れを取り戻そうとクラブ活動に力を入れすぎたのか、また熱を出してしまった。
- 以上のことから、風邪が完全には治っていなかつたのだと考えられる。

↑ 前の内容を踏まえている

を残すことができます。これは、多様な環境に適応するのに有利です。

⑪さらに、日本タンポポは春にしか咲きません。そして、さつさと咲き終わつて種子を飛ばすと、根だけ残して自ら枯れてしまうのです。

⑫夏になれば、他の植物は生い茂つて、小さなタンポポには光が当たりません。、他の植物との戦いを避けて、地面の下でやり過ごすのです。

⑬つまり、日本タンポポは、自然豊かな環境で育つのに、とても戦略的なのです。

⑭一方、西洋タンポポは、種子が小さく競争力は高くありません。また、一年中、花を咲かせようと/orするので、夏には他の植物に負けてしまいます。

その代わりに他の植物が生えないような都会の道ばたで花を咲かせて、分布を広げているのです。

⑮西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているということは、じつは、日本タンポポが生えるような日本の自然が減少し、都会の環境が増えているということなのです。

40

35

(5) 接続語 ⑥～⑧に当てはまる接続語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ しかし ウ そこで
エ たとえば オ また ハ なぜなら

⑥
⑦
⑧

(6) 接続語——線⑨「つまり、日本タンポポは、……とても戦略的なのです。」とあります。この一文の働きとして適切なもの次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これまで述べてきた内容の理由を示している。
イ これまで述べてきた内容の例を挙げている。
ウ これまで述べてきた内容を否定している。

エ これまで述べてきた内容をまとめている。

(7) 指示語・接続語——線⑩「他の植物が……花を咲かせて」とあります。西洋タンポポが他の植物が生えないような場所で花を咲かせる理由がわかる、連続する二文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

(8) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 西洋タンポポは、少量の小さな種子を遠くまで飛ばして子孫を残している。
イ 日本タンポポは競争力が弱いので、春にしか咲くことができない。
ウ 都会の環境が増えているために、日本タンポポの勢力が拡大している。
エ 西洋タンポポも日本タンポポも、それぞれ能力に合う環境で生息している。

25

演習問題

»» 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

① 古来、ウメの花と木は、多くの人々に愛され、絵に描かれ、詩歌に詠まれ、私たちの身近に息づいてきた。早春に、白色や紅色の花を咲かせ、香りを漂わせ、どの花より一足先に春の訪れを感じさせてくれる植物である。その花に漂う気品のために、「この植物が好き」という人は多いが、「この植物は嫌い」という人に出会ったことがない。

② ウメは、サクラと並び、日本を代表する花木である。両方とも、バラ科サクラ属の植物なので、花のつくりはよく似ている。□①、私たちは、自然のなかで、このどちらかを見て「ウメか、サクラか」と悩むことはめったにない。

③ 花の咲く時期がずれていることが一つの理由である。ウメは、本格的な春の暖かさが来る前の新春、あるいは、早春に花を咲かせるのに対し、サクラは10月一因である。

④ □③、時期がわからず香りがない絵や写真で、枝に咲く二つの花を並べたら、「どちらがウメで、どちらがサクラだろう」と悩むだらうか。多くの人は、□④、ウメの花とサクラの花には、わかりやすい違いがあるからである。

⑤ ウメの花には、柄がほとんどない。だから、枝から離れずに直接に花が咲いているように見える。それに對し、サクラの花は長い柄を伸ばして咲く。サクラの花に長い柄があることは、サクランボになつても長い柄が残っていることからわかる。

⑥ また、ウメは一つのツボミから一つの花を咲かせるが、サクラはそうではない。サクラは花咲く前には一つに見える芽の中に数個のツボミが入つており、そこから分かれ出るように柄が伸びて花が咲く。だから、サクラの花の個数は

ウメの花の個数よりずっと多い。そのため、サクラが満開になると、華やかさはウメよりもずっとまさる。

⑦ ウメは、華やかさでサクラと競う気はないだろう。その静かなたずまいのなかに漂う気品と香りを誇る花木である。その姿ゆえに、古くから、私たち日本人に愛されてきたのだ。『万葉集』において、詠まれている歌の数は、数える人により少しずつ異なるが、サクラを詠んだ歌が約四〇首であるのに対し、ウメを詠んだものは約一一八首である。

⑧ ウメの花の絵は、描きやすい。「ウメの花を描いて下さい」といわれれば、多くの人は、そんなに躊躇することなく、五枚の丸いまたは橢円形の花びらを輪のように並べて描く。花びらが五枚であることはよく知られているのだ。

⑨ その中央にメシベが一本、そのまわりにオシベが五本ほど描き込まれる。ほんとうは、ウメのオシベの本数はもつと多く、二〇本以上あるのがふつうだが、五本が描き込まれるだけで十分にウメの花らしく見える。

⑩ このように、ウメの花はわかりやすい形をしており、デザイン化するのがきわめて容易である。また、多くの人に愛されてきたという歴史がある。これらが重なつて、神紋、家紋として多く使われている。

（田中修「都会の花と木」より）

※一部省略等があります。

（注）たたずまい　霧囲氣。

万葉集　奈良時代末期に成立した、現存する日本最古の和歌集。

神紋、家紋　神社や家を表すしるしとして代々受け継がれている图案。福岡の太宰府天満宮の神紋は梅。

